

畜産みやぎ

発行所
 名取市増田字柳田379番地 1
 宮城県畜産会
 電話 382 - 8133

編集発行人
 大堀 哲

印刷所
 (株)東北プリント



巳 (仙台家畜保健衛生所 横山氏撮影)

も く じ

C O N T E N T S

会長年頭あいさつ	2	岩出山「若牛会」の活動について	7
知事年頭あいさつ	3	回分式活性汚泥処理に関する試験成績と 施設の特徴について	8
優秀農林水産業者の表彰について	4	家畜衛生四方山話	9
平成12年度宮城県農業コンクール受賞者の概要 ...	4	「さわやか畜産学部」	9
県内で初の自動搾乳システム(搾乳ロボット)導入.....	5	賀春	10
家畜衛生研究会開催報告	6		

みやぎの
 畜産情報
 発信基地

宮城県畜産会ホームページ

U R L <http://cali.lin.go.jp/japan/k04/>
 Eメール mygchiku@mwnet.or.jp

年頭挨拶



宮城県畜産会会長 大堀 哲

新年、明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで新しい年、21世紀をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、3月末に九州南部に92年ぶりに口蹄疫が発生し畜産業界に大きな衝撃を与えました。

その後、北海道にも発生し次はどこかと関係者一同危惧の念を抱いたものですが、その後の新たな発生もなく、無事終息に向かい清浄国への復帰が認められたことは幸いでありました。

口蹄疫の発生が終息に向かいつつある時発生したのが牛乳による食中毒でした。牛乳の需要期の最中のことでもあり、工場点検のための操業停止は、酪農家に大きな損失と不安を与えましたが、その中で生産者団体初め関係各位の懸命な努力により損失を少なくすることが出来ました。

これ等の事は、わが国畜産が国際化の真っ只中にありボーダーレス時代の貴重な教訓であると共に、今やわが国の食生活の中で主要な食品の位置を占める畜産物が与える影響の大きさを改めて認識させられた問題でありました。

一方、本県の農業は基幹作目である稲作は、例年になく早い梅雨明けと好天に恵まれ好調な生育を示し、2年続きの豊作となりましたが、畜産におきましては、夏期の高温のため死廃事故が多く発生し、畜産経営に大きな影響を与えました。

この様な情勢の中で本会は、平成11年4月から全農宮城県本部から業務を継承した和牛及びホルスタインの登録並びに家畜人工授精用精液の供給を畜産生産指導の一部門として位置付けして3課、3事業所の体制で業務を展開して参りましたが、お陰様でこれ等の業務は関係皆様方のご理解とご協力を賜り、ほぼ計画通りの実績となっております。

加えて、長年懸案となっておりました畜産団体の再編統合につきましては、具体的な動きと成果がみられました。

これにつきましては、県ご当局のご指導の下、関係団体との協議を重ね平成12年12月宮城県畜産団体再編基本構想を取りまとめ畜産団体再編の推進協議会で承認されました。

これに伴い、宮城県畜産会、宮城県養豚協会、宮城県生乳検査協会、宮城県家畜畜産物衛生指導協会、宮城県肉用牛価格安定基金協会の5団体は、宮城県畜産会を存続団体として残る4団体は、平成13年3月31日で解散し宮城県畜産会に統合、21世紀の本県畜産の健全な発展を担う団体として、新たな指導体制の構築による畜産農家のニーズへの対応と機能の強化を図り平成13年4月1日に、宮城県畜産協会として発足する運びとなっております。

その間、ご指導ご協力頂いた県ご当局並びに関係各位に厚く感謝申し上げます。

新団体の業務範囲は従来の5団体が受持ってきたパートの集大成であり幅広くかつ多岐にわたっており、従来にも増して関係団体機関との連携が重要となって参りますので関係皆様方の尚一層の御指導とご協力を賜りたくお願い申し上げる次第であります。

最後に畜産農家並びに関係者皆様方のご多幸と更なるご発展をお祈り申し上げ平成13年の年頭のご挨拶といたします。

<p>TCM 東洋ディーラー エム株式会社 本社・工場・仙台支店 宮城県仙台市青葉区中野字東村120-1 TEL 022-259-6222</p>	<p>肉牛出荷、養牛移動ストレス対策の栄養管理に!!</p> <p>ルビックス 牛乳成分飼料</p> <p>アミノ酸、ビタミン、ミネラルの混合飼料</p> <p>農協 畜産 経済連</p>	<p>正統の育ちと味</p> <p>仙宮牛</p> <p>仙台牛銘柄推進協議会 仙台市青葉区上杉1-2-16 全農みやぎ仙台管内 TEL 022(264)8450</p>
---	---	--

年頭のあいさつ 「新世紀 豊かさ実感みやぎ」



宮城県知事 浅野史郎

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、希望に満ちた新年を、そして夢と期待にあふれる新世紀への第一歩をお迎えのこととお喜び申し上げます。

二十一世紀という新たな世紀の幕開けを迎えた今、時代は大きな転換期を迎えています。

地球環境問題の顕在化、国際競争の激化、高度情報化の進展、人口減少、高齢化時代の到来などの課題が深刻化する中で、二十世紀最後の昨年は、「地方分権一括法」の施行や地方分権の試金石である「介護保険制度」の発足など、地方分権の実現に向けて大きな一歩を踏み出した年でありました。

こうした中で、大量生産・大量消費・大量廃棄、画一性、中央集権といった言葉で表されるような、経済成長を優先目標とするさまざまな制度や仕組みは、急速な少子・高齢化の進行とも重なり、根本的な変革が迫られています。

経済的な豊かさという点では世界有数の水準に到達した私たちが、これから目指すべきものは、安心や安全、多様性、特性、自然環境、ゆとりといったコトバで象徴される豊かさなのではないでしょうか。

それは、暮らしの安心やゆとりを実感できる社会環境を基盤として、個人や地域の自主性や多様性が尊重されるとともに、人々の自主・自立の気概に満

ちた、自己責任を基本とする多彩な挑戦が活発化する社会です。

県は、「安心・安全・多様性・ゆとり」という言葉に象徴される「真の豊かさ」の実現に向けて、県民1人ひとりが誇りをもち、夢に挑戦できる地域社会づくりを目指し、総合的に施策を展開して参ります。

農業・農村の振興では、昨年7月に制定された「みやぎ食と農の県民条例」に基づき、県民から信頼される食料の供給、農業の持続的な発展、農業・農村の多面的機能の発揮、農村の総合的な振興を推進するために、具体的目標を掲げながら各種施策を展開して参ります。

特に畜産においては、「新時代 強く生き抜く宮城の畜産」をスローガンに掲げ、肉質・肉量ともに優れた肉用牛生産体制の確立、ゆとりと効率的な酪農経営の実現、さらに養豚生産の基盤強化を図るなど、新しい時代の要請に的確に対応した畜産振興に努めてまいりますので、県民の皆様の一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。

年頭にあたり、県民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、ごあいさつといたします。



WORLD SPINETS

株式会社 五十嵐商会
仙台市青林区五町五丁目1番地4
電話(022)236-2929(代表)

畜産振興の明日を担う地方競馬

地方競馬全国協会

KOMATSU

カンタン操作で、
飼料も堆肥もラクラク作業

コマツ宮城株式会社
仙台市宮城野区郡町二丁目1の30
電話(022)2377441(番付)

優秀農林水産業者の表彰について

宮城県産業経済部畜産課

平成12年11月22日、23日の二日間にわたり、皇居及び明治神宮会館に平成12年度(第39回)農林水産祭表彰式典が開催されました。

式典では、農林水産大臣はじめ各界代表者、中央及び地方の農林水産関係者の出席のもと、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の授与が行われました。本県畜産関係では、次の方々が栄えある賞を受賞されました。心からお喜び申し上げますとともに、ますますの御発展をお祈りいたします。

Table with 4 columns: 表彰行事名, 品目, 市町村, 受賞者. Rows include awards for beef, pork, and dairy products from various prefectures and municipalities.

(家畜改良衛生班 菅原 章照)



平成12年度宮城県農業コンクール受賞者の概要

宮城県産業経済部経営金融課

宮城県では、農業・農村の改善に積極的に取り組んでいる営農集団等を表彰しております。

本年度も県内各地から多数の応募があり、厳正な審査の結果、受賞者が決定され、表彰式は、1月30日(火)大和町まほろぼホール(大和町吉岡)において行われる予定です。

畜産分野の受賞者は、次の方々です。

宮城県農業賞(経営部門 個別農家の部)

高橋隆民・満喜子(迫町・肉用牛)

「儲けるより損をしない経営」を信条に、計画的な資金繰りによる規模拡大を行い、機械作業で飼養管理が可能な畜舎を建設し、肉用牛250頭の大規模畜産経営を実現しています。

地域農業賞(経営部門 集団の部)

岩出山コントラクター組合(岩出山町・飼料作物作業受託)

飼料作物栽培の大規模受託作業を通じ、高齢化、婦人化している町の畜産振興を支える重要な存在として活躍しています。

桃生町農業協同組合養豚部会(桃生町・養豚)

統一された生産マニュアルなどにより高品質の豚肉生産を実現し、「宮城野田園ポーク」や「北の杜・桃生ポーク」のブランドを確立しています。

奨励賞(農業・農村活性化部門 新規就農者の部)

半澤善幸(丸森町・酪農)

フリーバーン牛舎等の整備により規模拡大と作業の効率化を図るとともに、糞尿処理施設の設置、牛群検定の導入など積極的な経営展開を図っています。

(農林漁業経営指導班 山村 孝志)

Advertisement for Ferment Feed (ピタコーゲン) by Seifu Co., Ltd. Includes text about fermentation and contact information.

Advertisement for Bifidus (ビヒダス) yogurt. Features the slogan '溶きたまま腸までとどきます' and 'ビヒダス' logo.

Advertisement for Miyagi Milk Producers' Association. Slogan: '来客 接待に牛乳を!!'. Includes a logo with a cow and the word 'MILK'.

県内で初の自動搾乳システム(搾乳ロボット)導入

宮城県産業経済部畜産課

自動搾乳システムは、1995年頃よりオランダにおいて一般酪農家に導入され始め、ここ数年で急速に普及が進み、現在欧州を中心に世界で約750台が稼働しています。このうち日本では約40台が稼働中です。

自動搾乳システムにおいて搾乳牛は、フリースタイルで飼養され、自らの意志で搾乳システム内に入ります。システムは、乳房・乳頭の洗浄、テートカップの脱着、搾乳、ディッピングまでをほぼ全自動で行います。現在主流となりつつあるシステム(1ボックスタイプ)では、1頭1日3回平均の搾乳の場合、1台で約60頭の搾乳が可能となっています。

自動搾乳システムのメリットとしては、延べ労働時間特に肉体労働時間の短縮(1/2~1/5)。多回搾乳による乳量の増加(15%程度)が上げられ、逆にデメリットとしてシステムが高価(3千万円前後)であることによる搾乳牛1頭当たりの施設投資額の増大。終日搾乳やコンピュータによる牛群管理等による質的(精神的)労働の強化等があげられます。ゆとりの創出、3Kイメージの払拭、後継者確保等酪農経営の可能性が広がる一方、負債を抱え込む危険性もあるのです。

これまで、東北地方では岩手県農業研究センター畜産研究所に試験研究用として1台導入されていましたが、本県においても昨年10月、宮城県農業公社が事業主体である畜産基盤再編総合整備事業により、宮城県酪農業協同組合(以下:宮酪)が自動搾乳システムを導入し(志津川町の首藤氏の乳牛舎に設置)、酪農家レベルでの問題点や、宮城県への適応性等を明らかにするべく11月下旬から稼働を始めました。搾乳牛20頭からのスタートでしたが、人も牛も徐々に慣れてきているとのこと。現在、宮酪及び首藤氏を中心に農改センター、畜産試験場、ホル協など関係機関がシステムの調整、採食量や個乳サンプルなど各種データ・試料の採取に取り組んでいます。

なお、導入の検討段階から宮酪及び首藤氏をバックアップするため、平成11年11月から関係機関により「搾乳ロボット支援連絡会議」が組織されており、この場で今後1~2年の蓄積データの解析・評価も行い、システム導入に当たっての留意点等を整理し、将来の補助事業によるシステム導入など、本格的普及に備える予定です。

最近のオランダにおいては、畜舎等の全面更新の際には、ほとんどの場合自動搾乳システムが選択さ

れるということです。

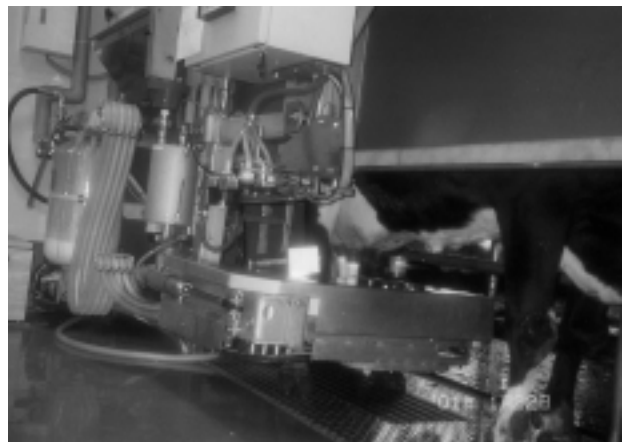
県内でも近い将来、ミルクパラーの更新時期を迎えた酪農家を中心に、自動搾乳システムの導入が有力な選択肢として検討されることになるでしょう。この際、今回の試験的な導入で得られる知見が活かされれば幸いです。

自動搾乳システムは、「ゆとりある酪農経営」実現の切り札となる可能性がある一方、搾乳作業という酪農業における生産の喜びを実感できる機会を、失うという側面も併せ持つと考えられます。また、搾乳の自動化は、これまで難しかった家族経営による数百頭規模酪農の出現さえ予感させます。

このように、酪農業の将来の姿を左右するかもしれない自動搾乳システムの県内第1号が、県内酪農家の選択肢の一つとなり得るよう、順調に稼働することを念じる次第です。

(施設の視察見学は牛及び首藤氏の負担軽減のため3月末までご遠慮下さい。また、4月以降の視察見学は宮城県酪農業協同組合にお申し込み下さい。)

(草地環境整備班 天野 祐敏)



家畜衛生研修会開催報告

宮城県産業経済部畜産課

昨年の10月13日(金)、仙台市内のホテル「白萩」において、農林水産省畜産局衛生課の課長補佐小倉弘明氏及び北海道酪農畜産課の技術主査西英機氏の両名を講師に迎え、家畜衛生研修会が開催されました。会場は関係機関・団体、獣医師及び生産者を含めた100余名の参加者が熱心に聞き入り、また、質疑では活発な討議が行われ盛会裡の内終了いたしました。

今回の研修会では、我が国で92年ぶりに発生した海外悪性伝染病の口蹄疫の防疫対応について、北海道からは現地対応の状況や反省点を詳細に紹介いただき、今後の宮城県における防疫対応の強化にあたり、大変参考となる内容でありました。

さらに、この中で講師が特に強調してきた事に、関係機関・団体の役割があります。普段は地域の家畜保健衛生所が中心となって動いている防疫活動も、いったん口蹄疫の様な広域のかつ多数の人員等の動員を要する伝染病が発生した場合、県のみならず市町村・農協等の関係機関・団体が一丸となって取り組まないと対応は極めて困難であり、自らの畜産を守るんだという協力体制があって初めて可能であると指摘しておりました。今後もこの点を十分に踏まえ、連携強化に努めてまいりますので御協力お願い申し上げます。

国からは近年の家畜防疫の情勢として、飼養規模の大型化・專業化等により伝染病発生時の被害及び防疫措置のコスト・損出の大型化、また、戸数の減少により地域ぐるみでの取り組みが困難となっていることなどが提示されました。この様な状況の中で関係機関との連携のもと、口蹄疫のまん延防止と清浄化を達成した宮崎県、北海道の事例に触れ、危機管理体制の重要性を強く指摘する内容でありました。

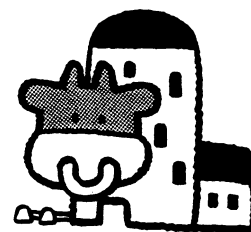
更に、生産コストの削減と国際競争力の強化を目的とした豚コレラ撲滅対策事業については、平成12年10月1日よりワクチン接種が全国的に中止され、今後は輸入検疫の強化と国内における監視体制を強

化し、早期発見・淘汰により本病の撲滅を達成することとなり、国からはこれまでの経過説明と本事業の趣旨に対する理解・協力が要望され、国への要望も含め実のある討議が行われました。

また、県においても家畜防疫互助基金の推進、緊急接種用ワクチン・資材の備蓄等の関連事業を進めながら、発生に備えてまいります。

昨年は口蹄疫の発生により家畜防疫の重要性が再認識されるとともに、行政、関係機関・団体等の社会的役割が注目された年でもあります。参加者の皆様には今回の研修会を通じ、畜産振興における家畜防疫への理解が深められたことと考えております。

(家畜改良衛生班 柴崎卓也)



北海道での防疫対応

口蹄疫に関連した抗体検査実績

検査区分	乳用牛		肉用牛		乳肉複合		合計	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
宮崎関連疫学調査	60	590	186	1,830	25	241	271	2,661
移動制限地域内農場	97	2,498	31	688	11	320	139	3,506
発生農場の導入元農場	5	150	62	1,561	18	500	85	2,211
合計	162	3,238	279	4,079	54	1,061	495	8,378

発生農場での埋却処理

殺処分家畜	705頭
粗飼料	1,161 t
配合飼料等	121 t
敷料	6,200
堆肥	3,540

岩出山町「若牛会」の活動について

岩出山町の繁殖牛農家の後継者11戸で組織する「若牛会」が、設立から今年で20周年を迎えました。地域及び町の畜産振興に果たしてきた若牛会のこれまでの歩みと、活動内容についてレポートしたいと思います。

1 設立の経緯

若牛会は昭和55年、農業後継者による4Hクラブの専門部会として発足しました。当時は酪農を含めた畜産部会として活動し、調査・研究のいわゆるプロジェクトが中心でした。その後、和牛繁殖経営の部会員が増えるにつれ、内容がより専門的になり、繁殖牛経営にウエートをおいた県内でも屈指の活動が盛んな地区となりました。やがて部会員が年長になると、年齢的な制約から4Hクラブを卒業することになり、平成2年、自主活動を展開するため独立し、現在に至っています。

2 構成と活動内容

現在会員は、21歳から42歳までの11名です。全員が水稲との複合経営で、飼養規模は10頭以上です。最近では20頭以上飼養する会員もいます。

会の役割分担は会長以下、それぞれがプロジェクト、研修、市場成績等何らかの役割を担当し、全員参加による活動が基本です。月に一度の定例会を会員宅回り番で開催し、行事の打ち合わせや情報交換をしています。

主な活動としては、飼料用トウモロコシの収量調査、外部委託の飼料分析、畜舎巡回による飼養改善検討会、視察研修等です。

視察は県内外が中心ですが、平成3年には町の海外派遣研修に若牛会からも6名参加し、ドイツ、フランス等を視察しました。全員が認定農業者であるため、町の認定農業者支援事業から国内研修の経費に助成が出来ます。それを利用して平成11年は家畜導入も兼ね鹿児島県へ行き、種雄牛農家で話を聞きました。

また、パソコンは現在8名が所有しています。操

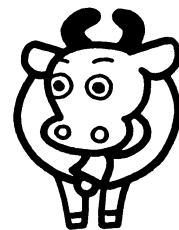
作の上達を目的としたパソコン研修会を年に数回実施し、飼料計算や簿記帳、インターネットからの情報収集について研修しています。その他、玉造郡家畜共進会では、若牛会による焼き肉昼食を16年間提供し恒例行事となっている他、鳴子町の和牛改良組合青年部との交流会も毎年実施し、親睦を深めています。

3 今後の若牛会

若牛会の活動は、今まで農業新聞や月刊誌「養牛の友」、中央畜産会のPRビデオ「輸入自由化への挑戦」で紹介され、数年前にはテレビのバラエティ番組に出演依頼される等、何かと注目される存在です。しかし、これらに奢ることなく初心に戻り、個々の経営を着実に進める姿勢があります。会員中7名が家畜人工授精師、2名が削蹄師の資格を持ち、町の改良組合の組合長、理事も会員から選出される等、若牛会が岩出山町の畜産振興の一翼を担ってきた実績は大きいものがあります。

去る平成12年11月には、設立20周年の記念式が鳴子で開催され、挨拶の中で野村泰世会長から「今後も21世紀に向け、牛歩のようにゆっくりと、しかし着実に足跡を残して行きたい」との抱負が語られました。これからも町の畜産振興に無くてはならない存在となるよう、若牛会の活躍に期待が寄せられています。

(レポート：古川地域農業改良普及センター 阿部 総明)



特産・畜産

こ だ わ り

市 場

KODAWARI
ICHIBA

.....日本全国いいもの産直便.....

各県の畜産会が選び出した全国的2000件の畜産物生産情報を、一堂に集めました。

今まで知らなかった珍しい畜産品や、こだわり畜産品の数々。

産直品で食卓にひと花添えたい人から、産直品を作りたい人まで、

とつても役に立つ情報が、インターネットでご利用になれます。

宮城県畜産会ホームページからのアクセスをお勧めします。

<http://cali.lin.go.jp/japan/k04/>

畜試便り

回分式活性汚泥処理に関する試験成績と施設の特徴について

宮城県畜産試験場

はじめに

平成11年に制定された「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」の施行によって、家畜ふん尿を適正に処理する事が義務づけられたと同時に、この法律は畜産農家に家畜ふん尿の発生量と、その処理方法を記帳することを求めています。収益性が低下する中での施設整備は困難な面もありますが、ふん尿処理は畜産経営を継続する必要条件の一つになったと認識せざるを得ません。家畜ふん尿の処理については固形分は堆肥化するとして、尿汚水など液体分は、液肥としての利用は限られてくるので、浄化して放流する必要があります。当場では多くの浄化処理方式の中から管理し易く処理能力が安定している回分式活性汚泥処理方式を選定し、実証試験を継続してきました。

1 これまでの試験結果

連続曝気に比べ、間欠曝気を用いる方が、処理水中の窒素・リンの除去率を向上できることを実証しました。(除去率90%以上)一方、曝気槽内の処理状況を比較的安価なDO(溶存酸素)計とORP(酸化還元電位)計によって監視できることを確認しました。また、3倍程度の突発的な高濃度汚水の流入によってもBOD容積負荷を低く抑えた設計の曝気槽はほぼ正常な機能を維持し続けることを確認しました。

2 回分式活性汚泥法の特徴

尿汚水処理施設の5年間の運転を通じ得られた施設の特徴、留意点について以下に述べます。

施設規模

曝気槽は十分な容積が必要ですのでそれに見合った敷地の確保が前提条件となります。曝気槽容積1に対してBODが何kg処理できるか(BOD容積負荷)は処理装置の能力を示しますが、高負荷な運転条件では危険を伴います。回分式活性汚泥法による当場の例をひいてみますと、乳牛50頭(ミルクングパーラー排水を含む)の処理対象汚水量を3000/日+パーラー汚水量は2000/日で合計5000/日、乳牛から排出されるBOD量は17.5kg/日+パーラーより排出されるBOD量は1kgで合計18.5kg発生するBODをすべて処理すると、BOD容積負荷0.3kg/・日(回分式活性汚泥法はこの程度が安全)として設計しますと、約60の曝気槽が必要ということになります。曝気槽の深さを1.5としますとこれだけで40の敷地が必要となります。その他付随する設備の専有面積を考えますと100程度の敷地は必要となります。

施設規模算定に当たって、尿汚水の量や質について把握する必要があります。畜舎の構造や敷料の種類、固液分離の方法などによって若干のパラツキはあるものの、畜種、生育ステージ毎に指標的な値が一覧表で示されています(畜産環境整備機構 家畜ふん尿処理・利用の手引き等)ので、それらを参考に、算出することができます。

維持管理の特徴

下水処理場等で用いられる連続式活性汚泥法と比較して、回分式活性汚泥法は貯留した1日分の汚水を一度に曝気槽に入れれば良いので流入汚水を常時監視しながら調整する必要はありません。また、曝気槽を大きめに(従ってBOD容積負荷が低い)設計していますので、微生物環境に余裕があり流入する汚水の濃度・量の変動をある程度許容できるという特徴があります。

BOD(生物化学的酸素要求量)やSS(浮遊物質)の除去については活性汚泥法の得意とする所であり良好な除去率を示します。一般河川や湖沼への放流基準を満たすことはさほど難しいことではありません。

施設費と維持費

この法式は構造が簡単な反面、比較的大きな曝気槽が必要になりますのでこの建設費が大部分を占めます。現在の施設は、乳牛50頭規模で2千万円程度と高いので、施設費削減が大きな課題です。

施設維持費については、水中ポンプの修理代と曝気装置などの電気代で、1月当たり2~3万円といったところです。


3 これからの試験計画

放流先である河川の管理者の要求する放流水に対する水質が厳しくなってきたため、水質の更なる向上が重要と考え、放流水中に若干残留するリンや排水の色を土壌濾過装置などで除去する試験を現在行っております。今後、この施設をより低コストに建設できるよう構造を検討するとともに、あわせて放流水を二次処理槽に通すなどして、より一層きれいな水質を目指して試験を継続する予定です。

ふん尿処理対策の近道は処理方法に対する正しい認識です。必要条件を満たしていない処理施設をいかに工夫しても徒労に終わることになります。多大な投資をしなければならない尿処理施設は導入に当たって、その処理方式の特質を十分理解して取りかからなければなりません。

百聞は一見に如かず、一度見学に来てみてください。

(草地飼料部 環境資源チーム 大庭 康彦)

 <p>ともに創始 結成のオリオン</p> <p>酪農家の</p> <p>声を反映した製品づくりと安心のおけるアフターサービスはオリオングループの誇りです。</p> <p>東北オリオン株式会社</p> <p>本社 青森県 弘前市青森区南大町1番10号 TEL:022-284-1001 宮城支店 271-0802 千歳支店 TEL:022-771-1001</p>	<p>動物用医薬品 犬・猫用/二輪駆動</p> <p>フロントラインスプレー</p> <p>新発売</p> <p>動物用医薬品 ピタラクトン・ケリン製成のスポット駆除剤</p> <p>錠塩E100</p> <p>東北ゼンヤク株式会社</p> <p>〒980-2302 宮城県黒川郡大川町大川2丁目3-1-5 TEL:022-349-0791 FAX:022-349-0794</p>
--	---



衛生便り 家畜衛生四方山話

仙台家畜保健生所

西暦2000年は、日本で約100年ぶりという口蹄疫の発生があり、畜産関係者が一気にどよめいた年でもありました。本県においても、2000年4月の「牛ヨーネ病」の発生に始まり、7月には「牛結核病」更に12月には「家禽サルモネラ感染症(ひな白痢)」のいわゆる家畜法定伝染病が確認されております。牛結核病に関しては、1999年に大阪、兵庫、熊本で延べ21戸37頭が、ヨーネ病については、1999年に33都道府県で延べ468戸865頭の発生があり、現在も継続発生が認められております。今回、日本で発生した口蹄疫の発生に際して、調査・検査された農家は風評被害でかなり苦しんだそうです。このことを助長したのが、家畜保健所の職員等が着用する通称「宇宙服」白いつなぎ服なのだそうです。この服を着て農家に行けば、周囲から農家で何か悪い病気が出たと思われるも仕方の無いことなのですが、白いつなぎ服を着るにはそれなりの理由があります。それは、白い服は汚れが付けばすぐに判ってしまうので、「目に見えないウイルスや細菌が服に付いていません」という意思表示なのです。また、家畜伝染病予防法では、家畜を飼っていればいつかは病気になる可能性があるため、伝染病により患畜が発生した場合には家畜防疫員の指示のもとに自助努力で解決するというのが日本における家畜防疫の基本姿勢となっています。しかし、自助努力だけでは現実に困難な場合が多く、特定の病気については、殺処分や焼・埋却にかかる費用をいくらか国が負担することになっています。

いずれにせよ家畜伝染病の発生に備えるためには、家畜共済等の保険に加入して、相互扶助の制度を利用し、自分の財産を守る努力が必要であり、「備えあれば憂い無し」の精神が大切です。2001年を迎え、病気による経済的そして風評被害から身を守るためには、金銭ならず心の相互扶助も尚一層必要と思われます。

(感性鑑定班 齋藤 裕)

(実践大学校生の抱負) 「さわやか畜産学部」

宮城県農業実践大学校畜産学部 2年 須藤 秀晴



本人は右から3人目です

平成11年4月13日宮城県農業実践大学校畜産学部にて、私を含め8人の愉快的仲間たちが入学しました。

しかし、気が付いてみるともう少しで卒業してしまいます。みんなといつも寮で一緒に生活を共にしてきたせいか、とても寂しい気持ちになってしまいました。始めの頃は、みんなと上手くやっていたのだろうか、とても不安でしたが今では友達以上恋人未満?それ位なんでもうち明けられる仲間になりました。

また、みんなすごく明るく元気がいいし、違う意味での判断力、理解力、団結力はどの学部にも負けない位の自信があります。困った人を見るとつい助けたくなり、何か問題が起こるとすぐにかっつけて解決をし、夜遅くまで遊ぶ!これが私達畜産学部です。

しかし、夜寝るのが遅いせいか、朝起きることが最大の弱点です。あつという間の2年間でしたが、とても内容が濃く楽しいもので良い思い出になった様な気がします。学部恋愛(両方とも畜産学部)で結婚してやめていった人もいましたが、畜産学部の仲間には違いありません。まだ、卒業後の新たな第二の人生が決まってない人もいますが、一度きりの人生なので悔いの残らないように頑張りたいと思います。ばらばらになってはしまいますが、いつまでも畜産学部でいた事を誇りに思いこれからの人生に胸を張って歩いて行ってほしいとおもいます。本当に私はこの畜産学部に入り、とても良かったと思っています。先生方達にはとても感謝しています。この二年間ありがとうございました。

最後に一言「畜産学部最高ー!!!」



肉の日

毎月29日は肉の日です



お肉は、私たちの体の血となり肉となる、たいせつなタンパク源。ビタミン、ミネラルも豊富な、たいへん優れた食品です。

宮城県食肉消費対策協議会

〒981-1224 名取市増田字柳田379-1 (社団法人・宮城県畜産会内)

電話 022-382-8133

賀 春

宮城県農業協同組合中央会長
 全国農業協同組合連合会宮城県本部長
 宮城県信用農業協同組合組合会長
 宮城県農業共済組合連合会長
 宮城県生乳販売農業協同組合連合会長
 宮城県農業公社理事長
 宮城県草地協会会長
 宮城県獣医師協会会長
 宮城県酪農協会会長
 宮城県ホルスタイン協会会長
 宮城県養豚協会会長
 全国和牛登録協会宮城県支部長
 宮城県家畜畜産物衛生指導協会会長
 宮城県牛乳協会会長
 宮城県家畜商協同組合理事長
 宮城県養鶏協会会長
 宮城県ホルスタイン改良同志会長
 宮城県家畜人工授精師協会会長
 宮城県肉用牛価格安定基金協会会長
 宮城県牛乳普及協会会長
 宮城県食肉消費対策協議会長
 宮城県畜産会長

大 堀 哲
 櫻 井 照 三
 大 堀 哲
 佐 藤 清 夫
 佐々木 三 郎
 松 木 伸一郎
 三 浦 弘 彰
 鈴 木 新
 加 藤 寛
 及 川 富 男
 澤 口 喜 八
 佐 竹 仁 郎
 菅 原 郁 夫
 砂 金 甚太郎
 三戸部 栄 一
 岩 谷 寿 夫
 半 澤 善 幸
 野 地 昭 二
 伊 藤 孝 雄
 佐々木 三 郎
 佐 藤 利 吉
 大 堀 哲

宮城県動物薬品器材協会 (会員名)

(株) タ ッ ク
 仙台市青葉区上杉 3-3-8 TEL022-225-7330

(株) 美 濃 谷
 仙台市太白区羽黒台31-14 TEL022-245-4306

(株) ア ス カ ム
 仙台市若林区卸町 2-10-3 TEL022-284-8111

小 田 島 商 事 (株)
 古川市清水字周防10-1 TEL0229-26-4567

東 新 薬 業 (株)
 古川市古川字上古川屋敷 9-1 TEL0229-24-3211

ニチエーアグロ(株)東北営業部
 仙台市若林区卸町東 1-8-20 TEL022-232-9755